

公益財団法人ちばのWA地域づくり基金

2025 年度 事業報告書

(2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

【2025 年度概要と成果】

- ・ 2025 年度は、5 つの助成プログラムの運営を行った。そのうち「安房まちづくり基金」は初めてのローカルファンドとして公募助成を行い、安房地域に地域資源を活かした新たなチャレンジが動き始めた。
- ・ 一方、社会的養護下の子どもの自立を支援する「さくら基金」は応募がなく、公募の内容や広報手段など、検討する必要がある。
- ・ 地域課題、社会課題を広める取り組みとして、マルチステークホルダーによる地域円卓会議やワークショップを開催した。いずれも参加者の満足度も高く、課題の共有や地域づくりを共に考える場として有効であるといえる。
- ・ 財団のミッションである「多様な主体とともに志金と社会資源の流れをつくる」が実現できているかという点と十分であるとは言えない。多様な資金を活用しながら千葉県内の公益活動への寄付が促進されるような取り組みを進めていく必要がある。

【公益目的事業：公益活動支援助成事業】

1. 助成事業

(1) 事業指定助成プログラム

- ・ 2025 年度は年間を通じて募集を行い、2 回の締切りを設け審査をおこなった。

<第 1 次>

公募期間：2025 年 5 月 30 日～7 月 25 日

相談件数：5 件

申請件数：2 件

採択件数：2 件

<第 2 次>

公募期間：2025 年 7 月 26 日～11 月 28 日

相談件数：5 件

申請件数：2 件

採択件数：1 件

- ・ 寄付募集は 2024 年度採択団体 2 団体を含め計 5 団体が行った。
- ・ 今年度寄付総額：3,000,100 円／助成総額：6,066,480 円
- ・ 寄付募集団体および助成団体：

【2024 年度採択団体】

事業名・団体名・所在地	目標額	寄付募集期間	当年度寄付額	件数	助成額
大移転計画「シン・ぴおねろの森プロジェクト」	57,620,000 円	2024 年 10 月 1 日～ 2025 年 9 月 30 日	83,000 円	7	3,732,000 円

一般社団法人ぴおねろの森（印西市）					
社会的養護下のアフターケア事業 就労支援プログラム「きみらぼ」 きみらぼ友の会（千葉市）	3,180,000 円	2024 年 12 月 1 日～ 2025 年 11 月 30 日	1,410,000 円	7	1,440,000 円

【2025 年度採択団体】

事業名・団体名・所在地	目標額	寄付募集期間	当年度寄付額	件数	助成額
印西市内公共施設への生理用品設置、印西市内小中学校の初経女兒へ初めての生理セット寄贈、千葉県下児童養護施設から自立する若者へ自立応援生理セット寄贈プロジェクト 印西市市民公益活動団体 Shake Hands（印西市）	1,750,000 円	2025 年 10 月 15 日 ～2026 年 3 月 31 日	358,000 円	59	未実施
誰もが“発電者”！災害時には地域の充電ステーションとなる市民発電所を柏に 一般社団法人銀座環境会議（松戸市）	1,250,000 円	2025 年 10 月 15 日 ～12 月 15 日	1,118,100 円	118	894,480 円
パルスオキシメーター無償貸与事業 NPO 法人ハートキッズ・ジャパン（千葉市）	2,500,000 円	2026 年 2 月 25 日 ～2027 年 2 月 24 日	31,000 円	6	未実施

（２）テーマ・地域型基金

ア．子どもの今と未来を支える基金（継続）

・子どもの未来を育む「体験」「学び」の機会を提供する非営利団体（NPO法人等）への助成を行い、千葉県内における子どもの「体験」「学び」の機会の充実と拡充を図ることにより、「体験の格差」を解消することを目的とした公募助成を実施した。公募詳細は以下のとおり。

・2026 年度事業公募：

対象事業：

千葉県内において、日常の「体験・経験・学び」が不足しがちな状況に置かれた子どもたち（18 歳以下）に、心の成長につながる「体験・経験・学び」の機会を提供する事業。

助成対象期間：2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

申請受付期間：2025 年 12 月 1 日～2026 年 1 月 22 日

申請件数：7 件

採択件数：5 件

助成総額：1,000,000 円

・今年度寄付総額：298,915 円／助成総額：1,000,000 円

・助成先：

団体名・所在地	事業名	助成金額
NPO 法人 Matsudo 子どもの未来へ with us (松戸市)	松戸子ども食堂 サマーキャンプ 2026 自然体験プログラム	200,000 円
NPO 法人ネモチば不登校・ひきこもりネットワーク (習志野市)	フリースクール活動を活性化させる「食」と「音」の講座	200,000 円
船橋プログラミング部 (船橋市)	Minecraft による「未来の商店街づくり」ワークショップと、創造性を育むデジタル体験会の年間開催	200,000 円
NPO 法人 B-net 子どもセンター (酒々井町)	B-net 子ども夏祭り	200,000 円
Cozy Company (柏市)	森の冒険者あそび場	200,000 円

・2024 年度助成事業成果報告会として「子どもの今と未来を支える基金」成果報告会&セミナー・ワークショップを開催した。

日時：8 月 6 日 (水) 13 時 00 分～16 時 30 分

会場：松戸市民会館 301 会議室

参加者：15 名

満足度：86%

＜第 1 部＞助成事業成果報告

・子どもの今と未来を支える基金「経済格差を『体験の格差』につなげないための助成プログラム」振り返り報告 (ちばの WA 地域づくり基金)

・2024 年度助成団体成果報告

認定 NPO 法人 Matsudo 子どもの未来へ With us (松戸市)

船橋プログラミング部 (船橋市)

労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団東関東事業本部 (習志野市)

＜第 2 部＞セミナー・ワークショップ

・ちばぎん総合研究所研究員に聞く「データを読み解くって？」「データをどう地域活動に活かす？」活動の質を高めるためのデータ活用の基本

講師：小松孝之さん (株式会社ちばぎん総合研究所調査部担当部長)

・ワークショップ「調査データを読み解き、得られた気づきから地域に必要な支援を考える」

イ. 千葉災害支援基金 (継続)

・今年度は積極的な広報は行っていない。

・今年度寄付総額：10,000 円／助成総額：0 円

ウ. 休眠預金等活用助成事業 2023 年度通常枠「若年就労困難者のための包括的就労支援事業」 (継続)

・本助成事業は、国及び地方公共団体が対応することが困難な社会的課題の解決を図り、民間公益活動の自立した担い手の育成並びに民間公益活動に係る資金を調達することができる環境を整備することを目的とし、「民間公

益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（「休眠預金活用法」）及び同法施行規則等関連法令の規程にもとづき実施する事業である。

- ・当財団は資金分配団体として、民間公益活動の公募、資金助成と非資金的支援を実施している。
- ・資金分配団体事業期間：2023年10月17日～2027年3月31日
- ・財源：休眠預金／助成総額（2025年度分）：35,217,147円
- ・事業概要：千葉県において、従来の就労支援の枠組みから漏れ落ちる15歳頃～39歳頃の若年就労困難者に対する「包括的な就労支援（①就労に至るまでの選択肢の拡充、②就労定着支援体制づくり、③社会資源を有効活用する仕組みづくり）」を実施することにより、働きづらさを抱えた若者が、自分に合った働き方や仕事を選択でき、地域社会のつながりや関係をつくりながら自立し、豊かで安心できる暮らしが送れる地域社会を目指す。
- ・助成期間（実行団体の事業実施期間）：2024年5月～2027年2月28日
- ・助成先：

団体名・所在地	事業名	2025年度 助成金額
NPO 法人キャリア base（柏市）	通信制高校で就労に困難を抱える生徒のための就労支援事業	10,346,853 円
認定 NPO 法人キャリアデザイン研究所（柏市）	生きづらさを感じている若者向け多様な幸せ実現事業	11,552,481 円
企業組合 We need（市川市）	「働きたいのに働けない」生きづらさを抱える若者のための中間就労の場づくり	13,317,813 円

【2025 年度実施状況】

- ・助成先 3 団体に対する伴走支援：
 - 研修実施（振り返りワークショップ 3 回＊内 1 回は公開型、中間評価レビュー会、中間評価報告会）
 - 地域円卓会議（参加者 49 名、満足度 4.2／5）
 - 月次面談等（事業進捗管理、助言等）
- ・ニュースレター配信、取材（月 1 回）
- ・中間評価実施
- ・指定活用団体 JANPIA による研修への参加

（3）冠基金プログラム

ア. さくら基金（継続）

- ・児童養護施設から社会に巣立つ子どもたちが不安を抱えることなく、自立した生活を送ることができるように、支援団体が実施するキャリア支援事業やアフターケア事業などに活用される基金であり、今年度は寄付募集および公募を行った。公募詳細は以下のとおり。

- ・2026 年度事業公募：

対象事業：

社会的養護を必要とする子どもたちが、自分の可能性を広げられる環境づくりにつながる以下の活動

- ①キャリア形成につながる支援活動
- ②教育支援活動
- ③多様な体験機会の提供

助成対象期間：2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日

申請受付期間：2025 年 12 月 1 日～2026 年 1 月 22 日

申請件数：0 件

- ・今年度寄付総額：111,000 円／助成総額：0 円
- ・千葉テレビ放送株式会社様が進める「チバテレ SDGs 推進キャンペーン」を通じて、村瀬硝子株式会社様からの寄付金贈呈式に出席した。

イ. 安房まちづくり基金（継続）

- ・房総半島南部に位置する鴨川市、鋸南町、南房総市、館山市の 3 市 1 町における地域課題解決や価値創造を目指すソーシャルビジネスを支援する基金として設立された。基金設立者以外からの寄付も受け付ける。
- ・安房地域の豊かな自然、生業、暮らしを支え、持続可能なまちづくり、地域の活性化を目指し、安房地域の特性を活かしたソーシャルビジネスを推進することを目的とした公募助成を実施した。公募詳細は以下のとおり。
- ・2026 年度事業公募：

対象事業：

- ・人、もの、情報等の地域資源を活用し、持続可能なまちづくりにつながる活動
- ・次のア～オの条件をすべて満たすもの

ア 活動を通じて、地域課題の解決につながる社会的意義のある事業

イ 住民のニーズや地域課題を機会と捉え、ビジネスの手法を用いて活動経費を生み出す事業

ウ 地域課題に対するこれまでの取り組みにおける新たなチャレンジとなるもの

エ 事業に継続性があること

オ 実施地域が鴨川市、鋸南町、南房総市、館山市であること

助成対象期間：2026 年 4 月 1 日～2027 年 2 月 28 日

申請受付期間：2025 年 11 月 4 日～12 月 19 日

申請件数：6 件

採択件数：4 件

助成総額：800,000 円

- ・今年度寄付総額：0 円／助成総額：800,000 円
- ・助成先：

団体名・所在地	事業名	助成金額
NPO 法人 AWA369（館山市）	こども食堂（フードライズ 369）／フードバンク安房	200,000 円
一般社団法人安房ダイバーシティ研究所（館山市）	安房地域の畑から始まる多世代共創ファーム	200,000 円
笠名たんぼくらぶ（館山市）	拠点整備による持続可能な田んぼ再生へのチャレンジ	200,000 円
一般社団法人リュッカ（南房総市）	フリースクール事業 コミュニティ事業	200,000 円

（４）その他

- ・千葉県内の NPO の資金調達の実践につなげる組織基盤強化を目的とした連続セミナーを開催した。

「NPOのためのファンデレイジングセミナー」（全3回）：2025年10月4日、10月10日、10月21日、千葉市生涯学習センターにて開催

参加団体：5団体（NPO法人ワーカーズコレクティブういず、認定NPO法人キャリアデザイン研究所、日本こども芸術文化教育支援、一般社団法人リュッカ、NPO法人加曾利貝塚博物館友の会）

満足度：4.8／5

2. 資源仲介事業

公益活動を支援したい個人、企業、団体等からの資金以外の各種資源（人材、物品、情報など）を市民公益活動団体に仲介する事業であり、今年度は以下の事業を行なった。

（1）多様な寄付の機会の提供 （今年度収入：174,845円）

- ・寄付付き自動販売機（支援ベンダー）：7台設置（146,645円）

これらの寄付は設置者の意向に沿って「財団運営寄付」（140,490円）「子どもの今と未来を支える基金」（6,155円）に充当した。

- ・使用済みインクカートリッジ回収ボックス設置：5ヶ所（実績なし）
- ・切手・ハガキ寄付（2,440円）

これらの寄付金は寄付者の意向に沿って「財団運営寄付」に充当した。

- ・募金箱の設置：1ヶ所（未回収）
- ・寄付付き商品：認定NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所（茨城県）発行の英単語カレンダー、ひらがなれんしゅうちょう等を販売した。

これらの寄付金は「子どもの今と未来を支える基金」への寄付に充当した（25,760円）。

- ・物品寄付：カレンダー寄贈、飲料寄贈

これらの寄贈物品は寄付者の意向に沿って千葉県内の公益活動団体に届けた。

3. 助成業務等支援事業

今年度の受託事業はなかった。

4. 他機関等との連携

（1）一般社団法人全国コミュニティ財団協会

- ・全国コミュニティ財団協会は、コミュニティ財団の健全な発展を通じて、市民社会のより一層の成熟と市民が主体的に取り組む地域社会の課題解決を促し持続可能性を高め、公共の利益を増進することを目的として設立をしたコミュニティ財団の全国組織である。
- ・今年度は、以下の事業に参画した。

（1）理事会、社員総会、会員懇談会、年次大会への参加

（2）一般社団法人全国レガシーギフト協会

- ・遺贈寄付、資産寄付への関心が高まりつつある昨今、遺贈寄付が本人の望む最適な形で実現し、寄付した財産が地域の未来資産となり世代を超えて継承される社会を実現するために、全国的な仕組みとして全国レガシーギフト協会が2016年11月に設立された。
- ・遺贈寄付に関する相談窓口を設置し、対応。今年度の相談実績3件。

(3) ちばソーシャルビジネス支援ネットワーク

- ・本ネットワークは、地域社会の課題をビジネスの手法で解決するソーシャルビジネス事業者を支援するため、主に千葉県内の金融機関5機関と中間支援組織により2017年1月に発足した組織である。

- ・ソーシャルビジネス支援ネットワーク会議：3回開催

- ・ソーシャルビジネスセミナー&相談会：1回開催

日時：2025年10月23日13時～17時15分

場所：日本政策金融公庫千葉支店会議室

内容：基調講演「想いをカタチに！」（講師：モジョコンサルティング合同会社 長浜洋二氏）、施策紹介、個別相談会

参加者：20名

(4) 千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議

- ・本ネットワークは市民活動の支援体制の一層の強化に向けて、県内の市民活動支援組織の支援力向上を図るため千葉県が設置しているものである。

- ・当財団は2025年度より幹事団体として参画している。

- ・第1回全体会、第3回全体会への参加

(5) その他

ア. 啓発事業・講師派遣

- ・千葉ロータリークラブ例会にて、活動紹介を行った。
- ・つながる経済憲章策定委員会にて、活動紹介を行った。
- ・八街市主催「地域力向上スクール」にて、講師を務めた。
- ・つながる経済フォーラムちばにて、活動紹介を行った。
- ・ちばし地域づくり大学校（ステップアップコース）にて、講師を務めた。
- ・（一財）日本民間公益活動連携機構（JANPIA）主催「2025年度通常枠向けPO研修」に登壇し、事例発表を行った。
- ・認定NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ主催「助成金合同説明会」に参加し、当財団の助成プログラムの紹介を行った。

イ. 他機関との連携協働

- ・子ども食堂やフードバンクなど食を通じた支援にかかわっている団体が直面する課題を共有し、実施団体や中間支援組織、自治体や企業が相互に連携することを目的に、食でつながるinちばの会に参画した。
- ・認定NPO法人フローレンスが実施するこども家庭庁発出「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」の千葉県内への周知、審査業務を担った。
- ・公益財団法人京都地域創造基金が実施する助成プログラムの審査業務を担った。

ウ. その他

- ・助成申請案件以外にもNPO等からの相談対応を随時行った。

5. 財団運営活動

(1) 情報発信・啓発活動

- ・助成団体の取材記事をホームページで紹介しているほか、公募情報や活動報告など情報発信を随時行った。
- ・年次報告書（カラー16P）を作成し、寄付者や関係者に配布した。
- ・メールマガジンを毎月1回、配信した。
- ・外部からのヒアリングに随時対応した。

2025 年度実績：埼玉県議、経営実践研究会

- ・寄付者への感謝を込めて、ちばのWA活動報告会 2025 & 交流会を開催した。

日時：2025 年 12 月 13 日 14 時～17 時

場所：当財団事務所

参加者：7 名

【遺贈寄付啓発・促進】

- ・遺贈寄付の啓発・促進を目的に「遺贈寄付ウィーク 2025 NPO のための遺贈寄付セミナー『遺贈寄付を受け入れる準備、できていますか?』」を開催した。

日時：2025 年 9 月 26 日（金）13：30～16：00

場所：千葉市生涯学習センター 研修室 3

内容：基調講演「遺贈寄付を受け入れる準備、できていますか?」講師：一般社団法人全国レガシーギフト協会 山北洋二氏

事例発表：NPO 法人ちば MD エコネット、千葉大学基金

ちばのWAの取組み・事例紹介

参加者：15 名（NPO 関係 12 名、教育関係 3 名）

【メディア掲載】

- ・11 月 20 日、房日新聞「安房まちづくり基金が設立 上限 20 万円助成ソーシャルビジネスを支援」
- ・3 月 12 日、房日新聞「助成 4 団体が決まる 安房まちづくり基金 各団体に 20 万円を交付」
- ・3 月 12 日、千葉テレビ放送 チバテレニュース「児童養護施設退所後の就労支援に 村瀬硝子がチバテレ SDGs 通して 10 万円寄付」

(2) 資金調達活動

- ・新規個人や法人に対しての寄付依頼、既存寄付者への依頼、ウェブサイトを活用して呼びかけを行った。
- ・多様な資金を助成事業に活用するために、休眠預金やその他の助成金申請を検討、実施した。

(3) 当財団への寄付 (2,372,930 円)

- ・継続的に財団運営を応援してもらう仕組みとしてのサポーター登録の呼びかけを実施している。
2025 年度実績：個人マンスリーサポーター 6 名、個人年間サポーター 12 名、法人サポーター 4 社
前年度比 146%（個人 6 名増、法人 1 社増）、寄付額は 872,000 円となった。
- ・その他に、当財団事業運営への寄付として 1,500,930 円（支援ベンダー含む）の寄付を受領した。

【法人運営（管理）事業】

1. 機関会議の運営

（1）評議員会の開催

- ・第1回評議員会（2025年6月9日19時～20時 オンライン）
 - 第1号議案 2024年度事業報告及び附属明細書の承認
 - 第2号議案 2024年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認
 - 報告事項 2025年度事業計画及び予算について

（2）理事会の開催

定例理事会は4回、臨時理事会を2回開催した。

- ・第1回理事会（2025年5月21日19時10分～20時15分 オンライン）
 - 第1号議案 2024年度事業報告及び附属明細書の承認
 - 第2号議案 2024年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認（監査報告）
 - 第3号議案 評議員会の招集日時・内容
 - 第4号議案 常勤役員報酬月額承認
 - 報告事項 助成事業進捗報告、資源仲介事業進捗報告、他機関連携進捗報告、会計報告
- ・第2回理事会（2025年9月19日19時～20時30分 オンライン）
 - 第1号議案 事業指定助成プログラム2025年度第一次採択団体の承認
 - 報告事項 業務執行理事の職務執行状況の報告、助成事業進捗報告、資源仲介事業進捗報告、他機関連携進捗報告、会計報告
- ・第3回理事会（2025年12月19日19時～20時10分 オンライン）
 - 報告事項 助成事業進捗報告、資源仲介事業進捗報告、他機関連携進捗報告、会計報告
- ・第1回臨時理事会（2026年1月14日19時～19時30分 オンライン）
 - 第1号議案 事業指定助成プログラム2025年度第2次採択団体の承認
- ・第2回臨時理事会（2026年2月18日19時～19時20分 オンライン）
 - 第1号議案 安房まちづくり基金2026年度助成採択団体の承認
- ・第4回理事会（2026年3月11日19時～20時30分 オンライン）
 - 第1号議案 2026年度事業計画及び収支予算書等承認の件
 - 第2号議案 「子どもの今と未来を支える基金」2026年度助成団体の承認

報告事項 業務執行理事の職務執行状況の報告、助成事業進捗報告、資源仲介事業進捗報告、他機関連携進捗報告、会計報告

(3) 監査の実施

- ・監事が全6回の理事会にいずれも出席し、業務監査を実施した。
- ・2025年5月9日に2024年度の監査を実施し、監査報告書を作成した。また第1回理事会、定時評議員会に出席し、監査報告を行った。

(4) コンプライアンス委員会の開催

コンプライアンス規程に基づき委員会を設置し、開催した。

- ・第1回（2025年9月30日10時～10時20分 ちばのWA地域づくり基金事務所およびオンライン）
出席者：泉貴嗣理事（コンプライアンス担当理事）、金山卓晴弁護士、志村事務局長、元吉総務担当
議題：法人運営状況についての報告、内部通報運用状況について
- ・第2回（2026年3月6日15時～16時 ちばのWA地域づくり基金事務所およびオンライン）
出席者：泉貴嗣理事（コンプライアンス担当理事）、金山卓晴弁護士、志村事務局長、元吉総務担当
議題：法人運営状況についての報告、内部通報運用状況について、日本財団子ども第三の居場所「おひさまの家」取得物件、事業譲渡について報告

2. 役員に関する事項

(1) 評議員

今期中の就任、退任はなし

(2) 理事

今期中の就任、退任はなし

(3) 監事

今期中の就任、退任はなし

3. 事務局体制

(1) 組織体制

- ・期首は4名在籍、期末時点で事務局職員4名が（常勤2名、パートタイム2名、事務局長含む）が在籍している。
- ・武蔵野大学社会福祉学科より1名、立教大学コミュニティ福祉学部より1名を受け入れ、インターン実習を行った。

(2) 各事業の人員配置

助成事業・資金調達事業担当：3名
経理・総務・事業経理：1名

法人管理運営：1 名（兼務）

（3）職員研修とスキルアップ

- ・一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）によるプログラムオフィサー研修に職員 3 名が 3 回参加した。
- ・一般社団法人全国レガシーギフト協会主催、第 29 回遺贈寄付サロン「新しい公益信託制度を学ぼう」に職員 1 名が参加した。

4. 寄付者等の情報管理 (Donor Relationship Management)

個人情報保護方針等に従い、寄付者等財団支援者の情報管理を徹底するとともに、DM 等で寄付者への事業・成果報告、コミュニケーションを円滑に行えるよう、Salesforce 社のシステムを利用、データベースの適切な管理と活用を行っている。

Salesforce 利用にあたっては、Salesforce 社や（公財）京都地域創造基金のサポートを受け、効率運用できるよう取り組んでいる。

※Salesforce：CRM クラウドサービスを提供する業界トップのグローバル企業。NPO 法人等への無償提供プログラム など CSR にも積極的に取り組む。<http://www.salesforce.com/jp/>

添付資料：

- ・2025 年度 ちばのWA地域づくり基金助成等選考委員会選考会開催状況
- ・業務執行理事の職務執行状況報告
- ・間接的な寄付についての報告

2025 年度 ちばのWA地域づくり基金助成等選考委員会
選考会開催状況

■事業指定助成プログラム 2025 年度第 1 次

助 成 対 象：公益的・社会的な活動を行う非営利団体かつ千葉県内に事務所を有しているもしくは千葉県内で活動している団体

募 集 方 法：公募

選 考 方 法：申請書類及び団体情報開示内容をもとに、選考委員 3 名による審査を行った。

助成等選考委員会：

- ・日時：2025 年 9 月 4 日（木）10 時～12 時
- ・会場：当財団事務所
- ・選考委員（五十音順・敬称略）：清水洋行、田口由紀絵、吉田徹

選 考 基 準：

- （1）事業指定助成プログラムの趣旨と条件に合致しているか
- （2）地域社会のニーズや課題を的確にふまえたうえで公益性の高い事業であり、具体的な成果が期待できるか
- （3）目的、目標、事業計画、事業予算、寄付獲得方針・プランが明確で、妥当なものかどうか
- （4）実現可能な事業かどうか（体制、財源等）
- （5）地域社会に情報が発信されている（発信することができる）かどうか
- （6）寄付募集を通じて事業の展開、発展に寄与するか

選 考 結 果：2 事業採択

選考結果の公表：当財団ホームページ上での公開

■事業指定助成プログラム 2025 年度第 2 次

助 成 対 象：公益的・社会的な活動を行う非営利団体かつ千葉県内に事務所を有しているもしくは千葉県内で活動している団体

募 集 方 法：公募

選 考 方 法：申請書類及び団体情報開示内容をもとに、選考委員 3 名による審査を行った。

助成等選考委員会：

- ・日時：2026 年 1 月 7 日（水）10 時～12 時
- ・会場：当財団事務所
- ・選考委員（五十音順・敬称略）：清水洋行、田口由紀絵、吉田徹

選 考 基 準：

- （1）事業指定助成プログラムの趣旨と条件に合致しているか
- （2）地域社会のニーズや課題を的確にふまえたうえで公益性の高い事業であり、具体的な成果が期待できるか
- （3）目的、目標、事業計画、事業予算、寄付獲得方針・プランが明確で、妥当なものかどうか

- (4) 実現可能な事業かどうか（体制、財源等）
- (5) 地域社会に情報が発信されている（発信することができる）かどうか
- (6) 寄付募集を通じて事業の展開、発展に寄与するか

選考結果：1事業採択

選考結果の公表：当財団ホームページ上での公開

■安房まちづくり基金 2026 年度助成

助成対象：

- ・人、もの、情報等の地域資源を活用し、持続可能なまちづくりにつながる活動
- ・次のア～オの条件をすべて満たすもの
 - ア 活動を通じて、地域課題の解決につながる社会的意義のある事業
 - イ 住民のニーズや地域課題を機会と捉え、ビジネスの手法を用いて活動経費を生み出す事業
 - ウ 地域課題に対するこれまでの取り組みにおける新たなチャレンジとなるもの
 - エ 事業に継続性があること
 - オ 実施地域が鴨川市、鋸南町、南房総市、館山市であること

募集方法：公募

選考方法：書類選考及びプレゼンテーション形式の面接をもとに、選考委員4名による審査を行った。

助成等選考委員会：

- ・日時：2026年2月3日（火）13時～17時30分
- ・会場：館山商工会議所
- ・選考委員（五十音順・敬称略）：小松孝之、鈴木裕士、立見大作、牧野昌子

選考基準：

- ア. 地域のニーズとの適合性と事業への共感性
- イ. 地域資源を活用し安房地域の課題に取り組む提案である
- ウ. 事業の地域への貢献度
- エ. 団体としての成長が期待できる
- オ. 事業に実現性があり、将来に向けての継続性がある

選考結果：4事業採択

選考結果の公表：当財団ホームページ上での公開

■子どもの今と未来を支える基金 2026 年度助成

助成対象：

千葉県内において、日常の「体験・経験・学び」が不足しがちな状況に置かれた子どもたち（18歳以下）に、心の成長につながる「体験・経験・学び」の機会を提供する事業。

募集方法：公募

選考方法：申請書類及び団体情報開示内容をもとに、選考委員4名による審査を行った。

助成等選考委員会：

- ・日時：2026年3月4日（水）10時～12時
- ・会場：当財団事務所およびオンライン
- ・選考委員（五十音順・敬称略）：飯田耕一、勝又恵里子、小松孝之、桜井義維英

選考基準：

- (1) 公益性：事業・活動の目的、ターゲットが明確であり利益が開かれているか。また、それらが助成の趣旨に合致しているか。
- (2) 必要性：対象となる子どもの「自己肯定感の向上」「非認知能力の獲得」に貢献する事業か。
対象となる子どものニーズを把握し反映されているか。
- (3) 実現可能性：事業実施が確実に見込まれるか、体制が整っているか。
- (4) 団体の適格性：団体の過去の活動実績がその目的に沿ったものか。
- (5) 資金の必要性：資金使途が事業内容と整合性が取れているか、また、金額は妥当か。

選考結果：5事業採択

選考結果の公表：当財団ホームページ上での公開

業務執行理事の職務執行状況報告

■理事長

- ・理事会、評議員会出席
- ・2024 年度監査出席
- ・事務局打合せ出席、会計承認
- ・助成事業選考会出席、審査（事業指定助成第1次、第2次、安房まちづくり基金、子どもの今と未来を支える基金）
- ・アニュアルレポートインタビュー実施
- ・子どもの今と未来を支える基金成果報告会出席
- ・休眠預金活用事業地域円卓会議出席
- ・ちばのWA活動報告会&交流会出席
- ・安房まちづくり基金贈呈式出席
- ・寄付金贈呈式出席（千葉テレビ）

■専務理事

- ・事業報告書作成提出、法人管理業務
- ・理事会準備、運営、評議員会準備、運営
- ・コンプライアンス委員会開催
- ・法人会計、労務管理
- ・契約文書の発簡
- ・各助成事業進捗確認、報告書まとめ等
- ・契約範囲内の業務執行
- ・事業計画に基づく業務執行
- ・諸規程に基づく支出の執行

■理事長（決裁）

- ・2025 年 7 月 5 日 事業指定助成プログラム第1次助成選考委員委嘱の件
- ・2025 年 9 月 30 日 事業指定助成プログラム第1次助成先団体覚書締結の件
- ・2025 年 10 月 8 日 休眠預金活用事業 2023 年度通常枠社会的インパクト評価遂行支援業務契約締結の件
- ・2025 年 11 月 10 日 事業指定助成プログラム第2次助成選考委員委嘱の件
- ・2025 年 11 月 10 日 安房まちづくり基金助成選考委員委嘱の件
- ・2025 年 12 月 19 日 子どもの今と未来を支える基金助成選考委員委嘱の件
- ・2026 年 2 月 19 日 事業指定助成プログラム第2次助成先団体覚書締結の件
- ・2026 年 3 月 10 日 安房まちづくり基金助成先団体覚書締結の件

以上

間接的な寄付についての報告

■寄付付き自動販売機（支援ベンダー）設置場所

- ・株式会社エスプールプラス わーくはびねす農園（船橋市）2 台
- ・有限会社飯田産業（千葉市）1 台
- ・株式会社ソーケン製作所（市川市）1 台
- ・ホテルメイプルイン幕張（千葉市）1 台
- ・NPO 法人みらい工房（茂原市）1 台
- ・社会福祉法人みらい工房（千葉市）1 台

■使用済みインクカートリッジ回収ボックス設置場所

- ・NPO 法人子ども劇場千葉県センター
- ・認定 NPO 法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
- ・多世代交流拠点おおなみなみ
- ・あすみが丘ガーデンコート自治会
- ・四街道市みんなで地域づくりセンター

■募金箱

- ・ホテルメイプルイン幕張

以上